



特定非営利活動法人 APLA 2010 年度事業報告

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-15 サンライズ新宿 3F

☎tel> 03-5273-8160 ☎fax> 03-5273-8667

☎E-mail> info@apla.jp ☎URL> http://www.apla.jp



特定非営利活動法人

Alternative People's Linkage in Asia

APLA

2010 年度事業報告

APLA の活動が始まって3年目である2010年度は、海外の地域との関係作りを中心にすすめてきました。東ティモールでAPLAの活動を一緒に取り組む人びとに出会い、フィリピンと東ティモール相互を行き交う国を越えた地域間交流も果たすことができました。2010年のキャンペーンニュースのキャッチコピーであった“アジアでポコポコ種まき中”の言葉のとおり、地域自立に向けた“種まき”として各地域との具体的なつながりを作ることができたのではないかと振り返っています。今後は“発芽”に向けて、日本国内の地域との連携も構築しながら共に展開させていく段階へと入っていきます。

海外プロジェクト支援事業

フィリピン・ネグロス島

カネシゲファーム・ルーラルキャンパス (KF-RC) の取り組みが一段と進みました

フィリピン・ネグロス島では、2010年3月に完成したカネシゲファーム・ルーラルキャンパス (KF-RC) を軌道に乗せることが活動の中心になりました。野菜生産、畜産を軸に近隣の町への販路を調査し、地産地消で販売を始めました。特に養豚事業に力を入れ、農場の収益事業の柱になるよう構築を進めました。豚舎を整備し、研修生たちは豚の繁殖、出産、肥育までの全てを自分たちで運営するための指導を養豚の専門家から受け、技術を獲得していきました。子豚・肥育豚ともに地域でのニーズがあるため、10月には豚の売上が約76万円に達するなど順調に進み、農場自立の時期として目標としている2012年に向けて弾みをつけました。



2010年12月頃から出産ピークが始まり、2011年1月時点では豚が101頭(子豚67頭・肥育豚10頭・母豚24頭)となりました。

農場では生産現場以外にも適正技術の導入が進んでいます。豚舎から出る糞尿を利用した循環システムとして、BMW技術とバイオガスプラントを合併させた設備を構築しました。BM活性水は家畜の飲み水への混入、液肥、堆肥作りに活用されています。ラムポンプ(自動揚水器)の設置により24時間自動水汲みが可能となり、2010年度春の早魃時には水不足を緩和できました。また、来日したコーディネーターのアルフレッド・ボディオスさんがBMW技術協会全国交流会でKF-RCの取り組みを報告し、同協会のアジア連帯企画で韓国への招待も受け、韓国BMW協会との連携もできました。



バイオガスは農場内で少しでもエネルギーを自給することを考え、農場の台所でのガス供給として利用されています。

一方、地域の行政や学校との連携も進んでいます。地元ハギミッド小学校の家政・園芸科の授業を請け負ったり、ラ・カステリアーナ町の教師協同組合との取り組みも始まりました。その他、小学生、地域の行政、海外から多くの訪問を受けました。

2009年7月からKF-RCで研修を始めた第一期研修生6名が2010年9月に卒業し、内2名はより技術を高めた人として農場に残り、内3名は地元に戻り農業を始めました。卒業生とは密に連絡を取り合い、いつでもサポートができるような体制が敷かれています。「農場が嫌ならいつでもやめていい。マニラに行こうが、砂糖労働者になろうが、それは君たち次第。ただ、農業をやっているという気持ちがあるなら、いつでも待っている」というモットーのもと、現在は二期生として5名の若者が研修を重ねています(2011年1月、1名が自分には向いていないと見極め離脱)。こうした取り組みを継続するなかで、農業で生計を立てながら地域活性化の担い手となる若者を輩出していきたいと考えています。



卒業した第一期生。

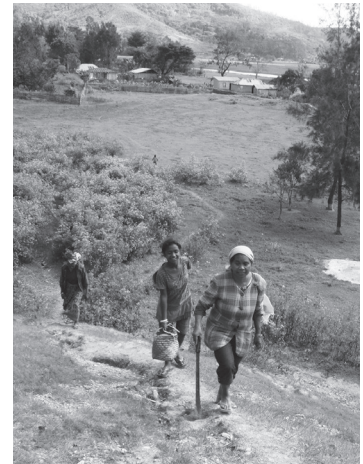


農場生産部門に関しては、2012年までには自立することを目標に活動を進めています。

東ティモール

農村の暮らし調査・経験共有ワークショップを開催

農村の暮らし（衣食住や仕事）の様子やコミュニティのニーズを具体的に把握するために、事務局スタッフの野川が2010年6月～8月の約2カ月間にわたり、7集落（エルメラ県、リキサ県、マヌファヒ県）に滞在しました。短期間ながら生活を共にするなかで見えてきたことをレポートにまとめ、APLA ホームページ上に掲載しています（APLA ホームページ：活動報告＞東ティモール）。滞在期間中には、地域の抱える問題を自分たちで何とか克服したいという強い意志を持ち、APLA の理念についても理解・共感してくれるコーヒー生産者グループと出会うことができました。以降、持続的な関係性をベースにしたこれからの取り組みについて、対話を重ねています。



ホームステイ先のお母さんと子どもたちと一緒にコーヒーの収穫体験をしました。山へ行く途中に1枚撮影！

8月には首都ディリ市内で「コミュニティ・グループの経験共有ワークショップ」を実施しました。これは昨年後半に複数の農村で実施した「農村ワークショップ」の結果を各コミュニティにフィードバックする意味も含めて企画したもので、今回も KSI（地域和解と社会変革を通じた地域の自立支援を目的に活動する現地 NGO）が全面的に準備・運営を担ってくれました。参加者は、10 のコミュニティ・グループから合計 23 名。農村ワークショップを実施したのが 6 コミュニティ、それ以外の関係性から参加に至ったのが 4 コミュニティです。今回のワークショップでは「コミュニティ・グループの自立のために何が必要か」というテーマ設定のもと、それぞれの経験や知識を共有しあうプログラムが実施され、参加者からは今後も定期的にこうした場を設けてほしいとの意見が寄せられました。



コーヒー産地以外の地域にもお邪魔しました。ここでは女性グループが様々な加工品を作っていました。（リキサ県マウバラ）



コミュニティ・グループの経験共有ワークショップは、初めて会う地域の人たちとの交流となりました。

インドネシア

石けん活動が進んでいます

2009 年より試行錯誤しながら続けてきたせっけん製造は、安定的に製造できるようになっています。ヤシ油を原料に現在製造しているのは、粉石けん、液体石けん、固形石けんで、粉石けんは ATINA ランドリーで工具の作業着洗濯に、液体石けんは工場ラインの製造、手洗いに使用しています。固形石けんは ATINA 従業員や口コミで地元で販売しています。2010 年 3 月から 2011 年 4 月の 1 年間の製造量は、粉石けん 790 キロ、液体石けん 2,050 リットル、固形石けん 4,022 個です。固形石けんはこのうち 2,560 個が売れ、一般向け 2,447 個、ATINA 従業員が 113 個となっています。固形石けんは香り好きのインド



石けん製造の様子

ネシア人向けにと、オレンジ、ローズ、ジャスミン、ラベンダー、牛乳、ハチミツ、ハーブなどを作っていますが、意外にも一番人気は無香料石けんで、次に売れているのがハチミツ石けんです。ATINA の石けんを買う人は、肌にやさしいものを、という意識が高いのかもしれませんが。因みに販売価格は1個 3,500 ルピア (35円) で、市場で売られている石けんと同レベルの価格です。今はまだ販売許可申請中のため口コミで売っているという状況ですが、近い将来、地元の雑貨屋やスーパーで販売する日も近いと思います。

エコシュリンプ加工工場・オルター・トレード・インドネシアの加工員さんたちと出会いました

2009 年の調査研究事業において、エコシュリンプの加工工場の労働者実態を調査しました。その報告書『エビ加工労働者という生き方』の完成にあわせ (詳細: 広報・出版事業参照)、2011 年 2 月 17 日～25 日にかけて、ATINA (オルター・トレード・インドネシア社) より労働者 3 名を日本に招き、シンポジウムを開催しました。また、オルター・トレード・ジャパンとの共同企画として、いつもエコシュリンプを食べてくださっている生協の組合員さんたちとの交流の場も持ちました。



共同代表の村井吉敬さんをモデレーターに労働者 3 名、調査者の間瀬さん、ATINA の津留さん、食労連の中田さんにパネリストになってもらいました。



生協の店舗で販売されているエコシュリンプを見つけて盛り上がる 3 名 (左からラハコさん、ヌルさん、ワワンさん)。

地域間交流

フィリピンと東ティモールの学びあい

「自立した地域づくり」に向けてそれぞれの経験や知恵を共有するため、フィリピン (ネグロス、北部ルソン) と東ティモールの農民の間での交流が始まっています。

2010 年 11 月 23 日～12 月 10 日の日程で、東ティモールで共に活動を進めていく 2 つのコミュニティの代表 (アフォンソ・ドス・サントスさん、ルシオ・ジョセ・アルビノさん) および ATT スタッフのダニエル・ペレイラさんがフィリピンを訪問しました。ネグロス島では AID 財団で適正技術の数々を目にし、KF-RC で養豚や炭焼きの技術について学ぶ機会を得ました。北部ルソンでは、KEA (カヤバ・エコビレッジ協会) のコーディネートにより、山間地における農業や先住民の知恵などをフルに学び、逆に、コーヒーについて、東ティモールの 3 人が経験を共有する機会も持たれました。



東ティモールを訪れた際には、実際の畑で具体的なアドバイスがありました。



中山間地で地形が似ている北部ルソンと東ティモール。どんな農業ができるか、北部ルソンの現場を見ながら話を重ねていきました。

その後、2011 年 1 月 22 日～2 月 5 日には、ネグロスからアルフレッド・ボディオスさん、北部ルソンからグレッグ・ラシガンさんが東ティモール・エルメラ県のコーヒー産地を訪問し、コミュニティのメンバーと交流しました。「コーヒーだけに頼らないコミュニティづくり」のために、作物の多様化や小規模養豚に関連する知恵や技術を伝達する時間を

共にしました。グレッグさんは、小型のコーヒーパルパー（果肉除去機）の製作技術をコミュニティで学び、北部ルソンに持ち帰っています。

互恵のためのアジア民衆基金（APF）・農村ツアーに参加

2010年11月にフィリピン・ネグロスで開かれた APF 第一期通常総会に、APLA 及び APLA の海外パートナーたちが出席しました。総会後は、2 日間にわたる生産地訪問ツアーが企画され、砂糖キビ産地やバナナ産地でそれぞれ生産者と交流しました。APF を通じてつながりを築きつつある地域の中でも、YPMD（インドネシア・パプア州）や PACOS 財団（マレーシア・サバ州）などの団体と、APLA としてもどのように協働していけるか模索していきたいと考えています。

広報出版事業

機関誌ハリーナ Vol.2（8号～11号発行）

2010 春 8 号

【特集】食をつくりなおす "共に食べる" 場づくりからの出発

- * 牛丼安売り合戦に見るデフレスパイラル——こうして貧困は地球規模化する◎大野和興
- * フードバンクの現場から◎吉澤真満子
- * 生ごみの堆肥化から地域循環をつくる◎菅野芳秀



2010 夏 9 号

【特集】日本の海外開発援助 そのあり方を現場から問う

- * 政権交代で日本の ODA は変わったか◎越田清和
- Report: メコン流域開発の現状と ODA ◎満田夏花
- Report: フィリピン・ヌエバビスカヤ州サンタフェにおけるサボダム・パイロットプロジェクト◎モイセス・ピンドッグ



2010 秋 10 号

【特集】"成長"をやめてみたらどうだろう

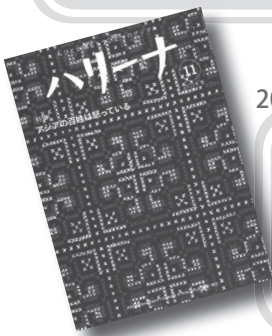
- * 〈脱成長〉——新しい社会正義の実現へ向けて◎中野佳裕
- Report: 東北タイの村びとたちがつくる「思いやる地域」◎森本薫子
- Report: 杉並区・高円寺に見る「脱成長」の空間◎堀 芳枝



2011 冬 11 号

【特集】アジアの百姓は怒っている

- * 日本から百姓が消えていく——農民寄り合いのレポートから◎吉澤真満子
- * ゴムに追われ、土地から引きはがされる小さな民◎大野和興
- * 自然災害の復興支援活動から見えるパキスタン農民の暮らし◎西村光夫
- * 北部ルソンの小規模農民の窮状◎グレッグ・ラシガン



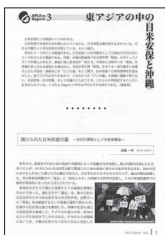
ブックレットシリーズ第三弾 『Naimbag Nga Aldaw』



世界遺産であるコルディレラの棚田群を有する北部ルソンには、多様な先住民(少数民族)が独自の価値観と先祖代々の土地を守りながら暮らしています。とはいえ、歩んできた道のりは決して平坦なものではなく、現在も多国籍企業による鉱山開発と闘っています。歴史や文化など、北部ルソンを知る最初の一步、「北部ルソンってどんなところ？」に答える一冊。授業、勉強会、学習会の機会にも教材として活用できます。

【2010年9月発行 16頁】

APLA Report no.3, no.4



【no.3 東アジアの中の日米安保と沖縄】

【2010年8月発行 20頁】

開けられた日米同盟の蓋～米日沖関係としての安保構造～◎武藤一羊
 沖縄からの報告：沖縄差別との闘い◎西尾市郎（日本キリスト教団うるま伝道所牧師/平和をつくる琉球弧活動センター世話人）
 グアムからの報告：グアムを揺るがす米軍再編の大波◎山口響（ピープルズ・プラン研究所）
 フィリピンからの報告：米軍訪問協定の10年◎Bulatlat、翻訳：山口響（ピープルズ・プラン研究所）
 韓国からの報告：在韓米軍の役割変化と基地再編の現況◎李泳采（恵泉女学園大学国際社会科学科教員）



【no.4 民主党の成長戦略を考える】

【2010年8月発行 20頁】

自由貿易と農業◎大野和興（農業ジャーナリスト）
 「新成長戦略」と原子力推進の内実◎西尾 漢（原子力資料室）
 援助の「先祖帰り」と「貧困削減」◎藤岡美恵子（法政大学非常勤講師/〈NGO 社会〉の会）

APLA ブックレット1 『エビ加工労働者という生き方ーエコシュリンプの加工現場からー』

2009年にATINA（オルター・トレード・インドネシア社）において実施した1ヵ月にわたる労働者への聞き取り調査報告をブックレット化。これまであまりスポットライトを浴びることがなかった冷凍加工のプロセスを担っている労働者たちの素顔に迫った一冊です。

【2011年2月発行 100頁】



手わたしバナナくらぶニュース 200～205号

特集ラインナップ.....

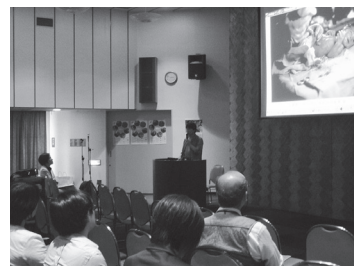
- 200 200号記念企画 バナナくらぶ座談会
- 201 APLA Forum2010「感じるアジア」報告
- 202 農業が好きになる学校～カネシゲファーム・ルーラルキャンパスの一年目～
- 203 コーヒー産地から Bondia！～東ティモール・農村ステイ報告～
- 204 インドネシアで石けん運動！～エコシュリンプ生産地域での取り組み～
- 205 フィリピンの砂糖産業は今…



交流事業

APLA Forum2010「感じるアジア」

5月22日の第3回総会の後には、見る、聞く（聴く）、歌う、踊る、とアジアを体感できるようなフォーラムを企画しました。フォトジャーナリストの山本宗甫さんを招いて、山本さんが歩いて撮影した写真とともにスライド・トークショーを開催。後半はアーティストの小向定さんによる東ティモールの歌を中心としたライブで盛り上がりました。



山本宗甫さんのトークショー。

グリーンコープ青少年ツアー

2010年7月、APLAの団体会員であるグリーンコープ主催の「青少年ネグロス体験ツアー」が開催されました。8名の高校生が参加し、ネグロスの青少年たちと共同生活を送りながら、ワークショップを行いました。ゲームなどを通じ言葉や文化が違う相手とも打ち解けるプロセスの中で、力強く生きていくための勇気を与え合うツアーとなりました。



ゲームを行うツアー参加者たち。

グリーンコープ組合員ツアー

同じく、グリーンコープ主催の「fromネグロス組合員ツアー」では、フィリピン・ネグロス島とインドネシアのATINAを訪問しました。ネグロス島ではバランゴンバナナ産地、マスコバド糖製糖工場訪問に加えて、KF-RCにおいて村の女性たちとのワークショップが開かれました。インドネシアではエコシュリンプの加工プロセスを見学し、池でのエビ獲り体験や工場内の加工体験のなかで加工労働者との交流が行われました。



ネグロス島のバランゴンバナナ生産者と交流しました。

" 島根県弥栄町を訪ねる旅～山村自給の世界から交易を考える～ "

2010年10月9日～11日の日程で、島根県浜田市弥栄町（旧弥栄村）を訪問しました。「中山間地での“豊かな”生活」、「地域自給からみえる新たな交易の可能性」などのテーマのもと、事務局2名を含む8名が地元農家さんとの交流や山歩きに参加しました。受け入れてくださった弥栄の方々からは、地域の中での新たなつながりのきっかけとなったとの感想が寄せられています。

※島根県中山間地域センター・やさか郷づくり事務所との共同企画。



山のプロの案内で山歩き。森の豊かさを実感するとともに直面している問題について共有。

調査研究

APLA 公開講座『農と食を考える』

＜グローバル化と農＞・＜日本の農と食の現場＞・＜むらとまちをつなぐ＞という3本のテーマ設定のもと、外部より講師を招いて全11回の連続公開講座を開催しました。各回10～30名の参加者があり、最終回には今後の活動の可能性や課題などを検討する議論を持ちました。

【開催日】2010年4月22日、5月20日、6月17日、7月15日、8月19日、9月16日、10月21日、11月25日、
12月16日、2011年1月20日、2月17日

カカオ・パームオイル研究会

カカオ（チョコレート等の製品を含む）およびパームオイル（ココナツ・オイルを含む）の民衆生産・民衆交易の可能性を探るため、まずは両商品の原料の植生や生産に関する社会的背景を知るために研究会を立ち上げました。現在は APLA、ATJ、大学院生・研究者などを中心に各回テーマを決めて学習会を開いています。

【開催日】2010年5月26日、8月3日、9月17日、11月2日、1月7日

民衆交易 20 年・バランゴンバナナ事業調査

2009年に20年目を迎えたバランゴンバナナの民衆交易を総括するべく、理事の市橋秀夫さんの事前調査（2009年）を踏まえ、2010年10月に同じく理事の堀芳枝さんがネグロス西州を中心に、2011年3月に再度市橋さんがネグロス東州を中心に調査を行いました。同年3月に予定されていた堀さんの2度目の調査は、東日本大地震の影響で2011年夏に延期となりました。報告はブックレットにまとめ、来年度後半に発行する予定です。



2010 年度活動一覽

● 出店 / 参加イベント
○ 出版 / 販売関連
■ 国内活動
□ 海外活動

- ちえのわハウスイベント (4/10)
- EARTH DAY TOKYO 2010 (4/17, 18)
- APLA 公開講座 1 (4/22)
- メキシコストレート・EV オリーブオイル 取り扱い開始

4月

- 手わたしバナナくらぶニュース 201 号
- エコシュリンプ期間限定お中元ギフト
- 東ティモール現地調査 (6/17 ~ 8/6)
- ネグロス◆グリーンコープ共同体・青少年ネグロス体験ツアー同行 (7/26 ~ 8/2)
- APLA 公開講座 4 (7/15)
- ATINA 社労働者調査・現地報告会 (7 月下旬)

7月

- フィリピン・インドネシア◆グリーンコープ fromネグロス組合員ツアー同行 (9/30 ~ 10/7)
- パキスタン洪水被害緊急支援募金 (~ 11/25 まで)
- グリーンコープ fromネグロスセミナー全 12 回 (10/26 ~ 11/30)
- グローバルフェスタ JAPAN2010(10/2,3)
- APLA 国内ツアー “島根県弥栄町を訪ねる旅” (10/9 ~ 11)
- トヨタ財団助成金贈呈式 (10/13)
- 埼玉県岩槻北陵高等学校にて授業 (10/14)
- 反貧困世直し大集会 2010 (10/16)
- 土と平和の祭典 2010 (10/17)
- APLA 公開講座 7 (10/21)
- 民衆交易 20 年・バランゴンバナナ事業現地調査 (編) (10/6 ~ 18)
- WE21 みなみ・世界食料デー (10/7)

10月

- 手わたしバナナくらぶニュース 204 号
- 東ティモール現地調査 (1/13 ~ 2/11)
- 築地本願寺安穏朝市 (1/16)
- APLA 公開講座 10 (1/20)
- カカオ・パームオイル研究会 (1/7)
- バレンタインギフト取り扱い開始
- 東ティモール◆フィリピン&東ティモール交流ワークショップ、コーヒー産地訪問 (1/22 ~ 2/5)

2011年 1月

- 学芸大学附属高等学校の学生に授業 (2/1)
- ハリーナ vol.2-No.11 (2/1)
- APLA Report no.4 (8/1)
- ATJ あぶらブックレット 1『エビ加工労働者という生き方』(2/18)
- Do! 平和募金贈呈式 (2/1)

- ハリーナ vol.2-No.8 (5/1)
- 手わたしバナナくらぶニュース 200 号
- 第三回 APLA 総会 (5/22)
- 明治学院大学にて授業 (5/25)
- カカオ・パームオイル研究会 1 (5/26)
- 世界フェアトレード・デー 2010 (5/8)
- APLA 公開講座 2 (5/20)
- APLA FORUM 2010『感じるアジア』(5/22)

5月

- ハリーナ vol.2-No.9 (8/1)
- APLA Report no.3 (8/1)
- エスコープ大阪「バナナ学習会&子どもおやつ作り」(8/27)
- 東ティモール◆現地調査、コミュニティグループの経験共有ワークショップ (6/17 ~ 8/6)
- グリーンコープ共同体・青少年ネグロス体験ツアー同行 (7/26 ~ 8/2)
- APLA 公開講座 5 (8/19)
- カカオ・パームオイル研究会 (8/3)
- 村上園のお茶取り扱い開始

8月

- 手わたしバナナくらぶニュース 203 号
- グリーンコープ fromネグロスセミナー全 12 回 (10/26 ~ 11/30 まで)
- ハリーナ vol.2-No.10 (11/1)
- KF-RC コーディネーター・アルフレッド氏来日。BMW 技術全国交流会にて KF-RC 報告、山梨県白州郷牧場、埼玉県小川町、霜里農場訪問 (11/13 ~ 21)
- 東ティモール現地調査 (11/10 ~ 18)
- 互恵のためのアジア民衆基金第二回総会、交流ツアー (11/18 ~ 22)
- ネグロス・北部ルソン◆東ティモール&フィリピン農民交流アテンド (11/19 ~ 12/10)
- パルシステム東京 40 周年記念イベント「食のチカラ」(11/13)
- APLA 公開講座 8 (11/25)
- 第 6 回アソシエーション文化祭 (11/27)
- 国際有機農業映画祭 (11/27)
- ドゥコープ平和活動団体交流会 (11/29)
- カカオ・パームオイル研究会 (11/2)

11月

- ATJ/APLA シンポジウム エビ加工労働者とわたしたち~エビから問い直す日本の食事情~ (2/19)
- ATINA 社労働者・スピーキングツアー (2/17 ~ 26)

- 早稲田大学にて授業 (6/1)
- 沖縄・緊急意見広告報告集会 (6/3)
- 第 7 回フォーラム・アソシエーション総会 (6/12)
- 和光大学にて授業 (6/15)
- ハイチ地震被害緊急支援募金 (~ 6/15 まで)
- 東ティモール現地調査 (6/17 ~ 8/6)
- ネグロス◆株式会社社匠集団そらが、KF-RC に設置された BMW プラントの最終確認のため訪問 (6/22 ~ 6/26)
- APLA 公開講座 3 (6/17)

6月

- 手わたしバナナくらぶニュース 202 号
- ブックレット『Naimbag Nga Aldaw フィリピン・北部ルソン』(9/1)
- WE21 ジャパン相模原学習会 (9/21)
- ネグロス◆カネシゲファーム・ルーラルキャンパス第一期卒業式 (9/1)
- ネグロス◆カネシゲファーム・ルーラルキャンパス第二期生研修開始 (9/4)
- APLA 公開講座 6 (9/16)
- カカオ・パームオイル研究会 (9/17)
- twitter 開始
- フィリピン・インドネシア◆グリーンコープ fromネグロス組合員ツアー同行 (9/30 ~ 10/7)

9月

- BMW 協会主催 KF-RC 視察ツアー同行 (12/2 ~ 6)
- APLA 公開講座 9 (12/16)
- 農民寄り合い ("TPP に反対する人々の運動") (12/15, 16)
- 株式会社通 CSR イベント出展 (12/17)
- エコシュリンプ期間限定お歳暮ギフト

12月



- 手わたしバナナくらぶニュース 205 号
- ナチュラレッサ販売再開
- 民衆交易 20 年・バランゴンバナナ事業現地調査 (市橋) (3/7 ~ 17)

2011年 2月

2011年 3月

収益

**APLA
ネットショップ**

4月・メキシコストレート取り扱い開始。
また、「みんなで作るコーヒーセット」を「よりどりコーヒーセット」とし、各種コーヒーから粉豆問わず3袋選べるように変更。コーヒー選びの幅が広がり、注文数も好調です。
8月・村上園のお茶（8品目）の取り扱いを開始。
2011年1月・昨年度に引き続きバレンタインギフト販売（スロウウォーターカフェとコラボレーション）。
3月・ナチュラルレッサ販売再開。

2010年度（2010年4月～2011年3月）	
ネットショップ	6,390,232円
イベント	543,447円
事務所販売	481,061円
手わたしバナナくらぶ	2,789,400円
エコシュリンプギフト（夏・冬）	284,200円

【各種コーヒー】販売休止前は人気商品だったメキシコストレート、ナチュラルレッサの販売が再開となりましたが、かつてのような売れ行きとはいかず、今後は商品周知に努めていきたいと考えています。
【マスコバド糖関連商品】箱で共同購入や3袋セットでのまとめ買いが多く、売れ行きは好調です。
【ゲランドの塩関連商品】箱での購入は少ないものの、単品・3袋セットの注文がコンスタントに入ってきています。
【オリーブオイル】2009年の産地での裏作に伴う収量不足から、4月よりエキストラバージン300mlの販売を在庫限りとし、バージンオリーブオイル300mlの取り扱いを開始しました。6月には一旦バージンオリーブオイル300mlのみとなりましたが、8月からエキストラバージン500mlを数量限定で販売、こちらは2011年1月に販売終了となっています。また、オリーブオイル石けんはバサーや学祭での販売を目的とした注文が目立ちました。
【 balanゴンバナナ】ネットショップでの売上は年間通してそれほど多くはありませんが、10月11日のイベントシーズンや学校の授業等での利用に伴う注文数は昨年と同数程度ありました。
【その他】ギフトや香典返しで商品を贈りたいという大口の注文が何件か入ったため、包装サービス・詰め合わせ商品の設定等の要望に個別に対応しました。これを受けて、来年度は包装・ギフトの提案等における新たなサービスの充実を図る方向で進めています。また、包装サービスでは海外パートナー作成のヤシの葉で編んだ天然素材のカゴや袋の利用を検討しています。
【エコシュリンプギフト】価格設定が上がったこともあり昨年度よりも注文数が減少していますが、リピーターの定着が見られます。

2010年度の新規入会者数は2名。2009年度のリニューアルにより会員期限の設定が最終注文月より1年となったためより正確な利用者数が表れました。

今後新たな販路を広げるべく、ネットを利用した入会・注文手続きの簡略化の道を探っていきます。

現在会員数		年間出荷件数（月平均）			
92名（124）		20kg	10kg	6kg	3kg
		51件（61）	191件（152）	160件（106）	283件（155）

※（）内は前年度集計数

緊急支援報告

2010年度は、2つの災害に関する緊急支援を呼びかけました。

①ハイチ地震被害緊急募金（2009年度から継続）：1,569,001円

APLAの関係組織である日本キリスト教協議会（NCC）も参加しているACTに送金しました。

※ACT/Action by Churches Together：プロテスタント系の世界的組織で緊急支援を行っている団体。

②パキスタン洪水被害緊急募金：153,310円

互恵のためのアジア民衆基金（APF）の会員であるNPO法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会（JFSA）に送金しました。

< 組織体制 >

理事 : 秋山眞兄 (共同代表)、疋田美津子 (共同代表)、村井吉敬 (共同代表)、吉澤真満子 (事務局長)
市橋秀夫、上田 誠、大野和興、鹿毛優子、廣瀬康代、堀 芳枝 (以上 10 名)

監事 : 近藤康男

評議員 : 有竹正寿、奥 万里子、出口雅子、橋本順子、弘田しずえ、堀田正彦、前島宗甫、幕田恵美子、
持井啓吾 (以上 9 名)

名誉顧問 : 前島宗甫

事務局員 : 吉澤真満子 (事務局長)、松田麻衣子 (専従)、野川未央 (専従)

現地担当デスク : 大橋成子 (フィリピン)、津留歴子 (インドネシア)

< 総会・理事会・評議員会 >

総会 : 第 3 回総会 (2010 年 5 月 22 日)

理事会 : 第 7 回 (2010 年 9 月 25 日) 第 8 回 (2011 年 1 月 22 日) 第 9 回 (2011 年 4 月 16 日)

評議員会 : 第 5 回 (2010 年 9 月 25 日) 第 6 回 (2011 年 1 月 22 日)